

第2学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

- 1 主題名 みんながつかうものは 内容項目 [C 規則の尊重]
- 2 ねらい 泥で汚れたスカートを拭いているおばあさんと女の子の姿を見て、はっとした2人の気持ちを役割演技から考えることを通して、「ルールを守ると自分も相手も気持ちよく、安心して過ごすことができる」ことに気付き、みんなで使う物を進んで大切に使う態度を育てる。
- 教材名 「きいろいベンチ」 (出典:「新しいどうとく2」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

内容項目 [C 規則の尊重] は、「生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に関する内容項目である。各発達段階における指導内容は以下の通りである。

【学習の系統性】

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校
約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

人が社会生活を営むためには、自分の思いのままに行動するのではなく、他の人の気持ちや立場を考えたり、自分の言動が他に与える影響を考えたりする姿勢が大切である。指導に当たっては、身近な約束やきまりはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、授業や休み時間など、約束やきまりを守って友達と仲良く過ごしている児童が多い。しかし、約束やきまりがあることは知っているが、自分の思いが先立ってつい守れないことや、そのことで友達に指摘されてけんかとなったり、トラブルになったりすることもある。その度になぜルールを守らないといけないのか話し合ってきたが、約束やきまりを守る理由について、守らないと親や先生に怒れるからと考えている児童もいる。

そこで、この授業を通して、約束やきまりはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあると気付かせ、進んで守ろうとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、公園で紙飛行機を飛ばして遊ぶことに夢中になっている「たかし」と「てつお」が、その楽しさのあまりベンチを泥靴で汚してしまう話である。その汚れたベンチに女の子が座り、その女の子と汚れたスカートの泥を払うおばあさんの会話を聞いて、2人は「はっ」として考え始める内容である。

本学級の児童の実態を受け、主に次のことを話し合わせる。

①ベンチの上から何度も紙飛行機を飛ばして遊んでいる場面

遊びに夢中で、約束やきまりを守れず、土足でベンチに上がって楽しむ2人に共感させる。

②女の子が、何も知らずにベンチに座ってスカートを汚してしまう場面

公共物を使用して嫌な思いをする女の子に共感させる。

③おばあさんと女の子の姿を見て、2人が「はっ」とする場面

教材には、2人が何を感じ、この後どうするかについては描かれていない。そこで、児童に「たかし」と「てつお」役になってもらい、どんな会話をするのか、この後どうするかについて役割演技を行う。役割演技を通して、感じていることや反省していることを考え、ねらいに迫りたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 「みんなで使う物」に関するアンケートを見る。 ・みんなで使う物には、どのようなものがありますか。 ○本時の問題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 公園の遊具 教室の机・椅子 図書室の本 ボール 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果や写真を提示し、身の回りにはみんなで使うものがたくさんあることを認識させ、本時の学習への問題意識を高めさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どうして、みんなでつかうものを大切にするのでしょうか。 </div>		
展開	2 教材「きいろいベンチ」を読み、話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 登場人物、条件、状況についておさえる。 テレビに場面絵を写して話を展開することで、登場人物に共感させる。 遊びに夢中になってしまい、他の人の迷惑になることを考えていない2人の気持ちを考えるようにする。
	(1) ベンチの上から何度も紙飛行機を飛ばして遊んでいる2人は、どんな気持ちでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいな。 高いところから飛ばすと遠くまで飛ぶな。 もっと遠くに飛ばしたい。 	
	(2) ベンチに座ってスカートを汚してしまった女の子はどんな気持ちでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 汚いな。 嫌な気持ち。 誰がやったんだろう。 座らなければよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> スカートを汚してしまった女の子に共感させ、公共物を使用して嫌な気持ちになるときの感じ方や考え方を捉えさせる。
(3) 泥で汚れているスカートを拭いているおばあさんと女の子の姿を見て「はっ」とした2人は、どんなことを思ったでしょうか。(中心発問)	<ul style="list-style-type: none"> このまま逃げようかな。 やらなければよかった。謝ろうかな。 ベンチを使う人のことを考えていなかった。 みんなで使う物はきれいに使わなければいけなかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技を通して、多様な考えを引き出す。多くの人を使うものを汚してしまったことに気付いた2人の姿から、みんなで使う物を大切にする事のよさについて考えさせる。 <p>【役割演技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ひろし役…児童 てつお役…児童 <p>☆みんなが使う物を大切にする事のよさを考えることができたか。</p>	
3 自己を見つめる。 ・今までみんなで使う物を大切にできたこと、またはできなかったことはありますか。その時、どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> この前、トイレのサンダルが脱ぎっぱなしだったので、揃えておいたことがあった。次の人が使いやすかったので、やってよかった。揃えた自分も嬉しくなった。 クラスの本が揃っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに書く活動を取り入れることによって、児童一人一人が道徳的価値についての自覚を深めさせる。 <p>☆これまでの自分を振り返りながら、約束やきまりを守り、みんなで使う物を大切にする事の意義について考えている。</p>	

		<p>くて斜めに入っていたとき、本が探しづらいことがあった。読んだらきれいに戻すことが、次読むときに自分のためにも人のためにもなることを思った。</p> <p>・休み時間が終わるとき、ボールがちゃんと片づけられていないことがあって、ボールの数が減って困ったことがあった。使ったら元の位置に戻すことで、またみんなで楽しく遊べると思った。</p>	
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>・約束やきまりを進んで守り、みんなでする物を大切にしていこうという意欲を高める。</p>

5 他の教育活動との関連

- ・学校生活上のきまりについて考えさせ、他の人に迷惑をかけない行動がとれるようにする。
- ・体育科においては、ルールを守り、互いを尊重しながらゲームができるようにする。
- ・図書室や校庭などの公共の場では、みんなのことを考えて使用できるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることの意義について自分との関わりで考えている。

7 板書計画

〇〇 きいろいベンチ

どうして、みんなでつかうものを大切にするのでしょうか。

たかし
絵

てつお
絵

2人で公園であそぶ

雨が上がり、よい天気

かみひこうきをとばしているとき

- ・たのしい
- ・高いところからだとよくとぶ
- ・もっと遠くにとばしたい

ベンチにすわった女の子

- ・きたない
- ・いやだ
- ・だれがやったの
- ・すわらなければよかった。

「はっ」とした2人

- ・にげようかな
- ・やらなければよかった
- ・あやまろうかな。
- ・ベンチをつかう人のことを考えていなかった。
- ・みんなでつかうものはきれいにつかわないといけなかった。

〇みんなでつかうものは...

- ・ほかの人のことを考えてつかうことが大切。
- ・大切につかわないと、みんなにめいわくがかかる。